

大阪樟蔭女子大学 シラバス作成ガイドライン

平成 31 (2019) 年 1 月 17 日 教務委員会制定

1. シラバス作成の基本方針

- (1) 以下の目的のためにシラバスを作成する。
 - 授業選択ガイドとして、学生が自分の興味、関心、学修計画に沿った科目を選択できる
 - あらかじめ、授業内容、方法、評価について教員、学生が相互に確認できる
 - 教員、学生が学修効果を高める資料として活用する
 - 教員が授業設計の資料として活用する
 - 教員間での情報共有を可能とし、授業改善・カリキュラム改善のサイクルに活用する
 - 認証評価を始め、対外的に教育の質保証を証明する際の資料とする
- (2) 上記の目的を達成するため、シラバス作成にあたっては以下の点を重視する。
 - 学生の視点に立ち、分かりやすい記述をする
 - 学生が学修計画を立てやすいよう具体的な記述をする
 - カリキュラム全体の中での位置づけ、到達目標の実現を意識する
 - 学修成果の評価に関する基準・方法を明確に示す

2. シラバスの記載項目

- ①授業科目の基本情報（科目名、単位数、授業コード、開期、講時、配当、担当教員名）
- ②授業の到達目標
- ③授業の概要（教員の実務経験と授業への活用）
- ④準備学習
- ⑤テキスト
- ⑥参考書
- ⑦学生に対する評価
- ⑧課題に対するフィードバックの方法
- ⑨講義計画（回数、授業計画、予習、復習）
- ⑩アクティブ・ラーニングの授業方法
- ⑪ディプロマポリシーとの関係
- ⑫授業科目の位置づけ・レベルを表す記号
- ⑬授業方法について
- ⑭学生への要望
- ⑮担当者への連絡方法

3. 各項目の記載について

②授業の到達目標

- ・本学では、カリキュラムマップを通じて、学生に身につけさせる資質・能力を明らかにし、学生が段階的な履修の方法や各科目の到達目標を明確に理解できるようにしている。そのため、各授業科目がカリキュラムの体系に明確に位置づけられており、各授業科目の「到達目標」が、大目標・中目標に沿ったものであること、到達点が明確であり評価可能であることが重要である。

そこで、以下の点に注意して記述する。

- 各授業科目の上位の「到達目標 1」「到達目標 2」を踏まえ、これらの目標が各授業科目で展開するよう目標を設定する
- 到達点を箇条書きにする
- 「～ができる。」「～が使える。」「～を表現できる。」など、学生の視点に立った表現にする
- 学生が自己評価できるような具体的に明確な表現にする
- 達成すべき到達目標の水準については「成績評価基準」に合わせて設定する

※補足①※

カリキュラムマップに基づき到達目標を設定いただくことは変わりませんが、2019 年度より成績評価基準を到達目標と関連させていますので、到達目標の設定にあたっては、成績評価基準（表 1）をご参照の上お願いいたします。

表 1 成績評価基準（2019 年度より）

到達目標	素点	グレード	基準／「到達目標を～」	備考
	90-100	S	到達目標を超えて優れた成績を修めている	
◎	80-89	A	十分に達成している	※到達目標はこの水準を満たすものとして設定
	70-79	B	概ね達成している	
	60-69	C	最低限達成している	※単位を与える最低基準を満たしていることを示す
	0-59	D	達成していない	
	合格	P	達成している	
	不合格	F	達成していない	

※補足②※

・「カリキュラムマップ」は、以下画面でご確認いただけます。

<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/teachers/> または、

大学ホームページ→教職員の方へ（画面下部「訪問者別メニュー」にリンクがあります。）

→「シラバス作成に関する参照資料」

・カリキュラムマップの見かた、カリキュラムマップを踏まえた目標設定の方法・設定例についてはこの資料の 9 ページに記載しましたので、ご参照ください。

※補足③※

到達目標の記載例

○講義科目の例（「英語学概論 A」）

英語・または言語一般に関して基本的なことがらを理解するために、以下の3つの目標達成を目指す。

- ・人間言語の特徴、英語の歴史や成り立ち、現代の「国際英語」について理解できる。
- ・英語の音のしくみ（音声学、音韻論）の基礎が理解できる。
- ・単語の成り立ち（形態論）の基礎が理解できる。

○演習科目の例（「心理統計の応用」）

心理学はデータに支えられた学問である。人間を対象として集めたデータから客観的な情報を引き出すためには種々の統計的手法が必要となる。この授業では心理学に必要な種々の統計的手法、特に種々の検定を用いる推測統計の学習と、コンピュータを用いたデータ解析作業の習得を目標とする。具体的には以下の到達目標を設定する。

- ・推測統計の考え方について理解できる。
- ・心理学研究における検定の意義を理解できる。
- ・ χ^2 乗検定、t 検定、一要因分散分析について理解し、実施できる。

③授業の概要

- ・授業の全体が把握できるよう、具体的に記述する

・当該授業科目に関連した実務経験を有する教員が、その実務経験を授業に活かしつつ実践的教育を行なっている場合、その実務経験と授業への活用について記載する（実務経験のある教員による授業科目）

※補足※

昨年度のシラバスにて＜★実務経験のある教員による授業科目＞として記載いただいております科目については、今年度も記載をお願いいたします。また、今年度より実務経験を授業に活かしつつ実践的教育を行っている場合、その実務経験と授業への活用について記載をお願いします。

＜記述例＞

大手通信会社で情報インフラの開発に携わった経験を活かし、この授業では、情報とはなにか、人間社会にいかにかかわり合うかを、情報の概念、情報のデジタル化とコンピュータ処理、インターネットの進展、著作権とプライバシー、高度情報化社会とセキュリティ等より学生に考察させる実践的な教育を行なう。

④準備学習

- ・各授業の時間外に取り組むべき内容（予習や復習など）について、できる限り具体的に記述する

※補足※

準備学習の記載例

記述例① 授業の中で数回の小テストを実施するので、毎回の講義が終わる度に復習を行い、授業で紹介した参考図書を利用するなどして理解を深めること。また事前に資料を配付することがあるが、これについては授業までに目を通しておくこと。

記述例② 消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問（なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか？なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか？）をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。

記述例③ 本科目については、企業経営に関する基本的な知識が必要である。経営学に関する入門書を自ら選んで熟読をしたうえで、概念の整理をしておくこと。また最近の企業経営の動向に関する新聞記事やニュースにはつねに注意をしておくこと。

⑤テキスト

- ・使用する場合は記載する

⑥参考書

- ・使用する場合は記載する

⑦学生に対する評価

- ・学生に対して単位を付与する際に、どのような観点によって成績をつけ、単位を付与するのかを具体的な評価の割合とともに示す

※補足※

厳格な成績評価の観点から、成績評価方法の明確化が必要となります。

学生に公平に周知させるためにも、具体的にご記入いただきますようお願いいたします。

学生に対する評価の記載例

○講義科目の例

筆記試験、レポートにて、○○に関する理解度、知識の定着度をみる。

筆記試験(60%)、レポート(15%)

授業に対する意欲は以下の基準にて評価する。

授業での発表・ディスカッションへの参加(25%)

○演習・実習科目の例

△△の分析のための収集、調査、解析などプロセスの習得が重要であるため、課題提出、授業への参加度を中心に評価する。

課題・提出物(70%)、授業での発表への参加(30%)

※これまで、授業への参加の意欲を評価する要素として「出席点」を挙げていただくことがございましたが、文科省等より『単に出席したことを評価の対象とすることは適切でない』と指導を受けております。授業への参加の意欲を評価する要素としては「出席点」以外の表現（例えば「授業への参加」「授業内での発表」等）をご使用ください。

⑧課題に対するフィードバックの方法

- ・学生に課す課題（試験、レポート、その他提出物等）に対するフィードバックの方法を示す

※補足※

課題に対するフィードバックの方法の記載例

- ・manaba での課題提出についてはコメント機能でメッセージを入れます。
- ・理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。
- ・レポートにはコメントを入れて返却します。

⑨講義計画（回数、授業計画、予習、復習）

- ・各授業の時間外に取り組むべき内容について、授業回ごとに「授業前（予習）」「授業後（復習）」のそれぞれを、要する標準的な時間も含めて、科目の特性に応じて記述する

※補足※

課題に対するフィードバックの方法の記載例

↓記載例↓

回数	授業計画	予習	復習
7	読む力③要約 要約の方法について学び借り出した図書、提示した文章を字数内にまとめる。	参考プリントを読んで内容をまとめる (50 分)	提示された要約課題に取り組む (40 分)
10	書く力③レポートの作成 複数課題からテーマを選択し、資料の収集・整理の後レポートを作成する。	テキスト p48～55 を読んで内容をまとめる (50 分)	レポートを仕上げる (120 分)

※なお、本学学則では授業時間と授業時間外の学修（準備学習）を、以下の時間数を標準とすることとしています。

半期 15 回の講義科目	授業 30 時間	準備学習 60 時間
半期 15 回の演習科目	授業 30 時間	準備学習 15 時間
半期 15 回の実験・実習科目	授業 30 時間	準備学習 15 時間

⑩アクティブ・ラーニングの授業方法

- ・アクティブ・ラーニングの手法（以下に示すア～オ）の要素を含む授業を実施する場合は該当の欄に「○」を付す
 - ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
 - イ ディスカッション、ディベート
 - ウ グループワーク
 - エ プレゼンテーション
 - オ 実習、フィールドワーク

※補足※

15回の授業のうち1回でも実施するなら「○」をつけてください。

複数項目につけていただいてもかまいません。

また、実施されない場合は「-」を選択してください。

⑪ディプロマポリシーとの関係、⑫授業科目の位置づけ・レベルを表す記号

- ・当該科目がディプロマポリシーのどれと結びついているのか、カリキュラムの中での位置付けやレベルを記号で示す

※補足※

各授業科目のディプロマポリシー（DP）との関係、位置付け・レベル表示については、ご所属の学科等より連絡申し上げますので、その内容をご記入ください。

ただし、科目によっては該当がないものもあります（資格関係科目など）。

⑬授業方法について

- ・授業方法で特に事前に示しておく方が良いと思われるものがあれば記載（ICTの活用、特定の教材・システムの利用、学生同士のディスカッションを適宜取り入れる、等）

※補足①※

ICT（例：manaba、elsat、weblio など）を授業内で利用されている場合は、「授業方法」に『ICT（manaba）を利用します』のように明記してください。

ただし、出席を取るためだけにmanabaを使用されている場合は、記載いただく必要はありません。

※補足②※

授業方法についての記載例

- ・パワーポイントを使って授業をすすめる。
- ・講義を主とするが、授業の展開の中で学生同士のディスカッションを取り入れる場合がある。
- ・授業中に配布するレジュメを中心にすすめる、またビデオを適宜使用する。

⑭学生への要望

- ・受講に際して学生に希望することや、あらかじめ有していることが望ましい知識、学修等があれば示す
- ・人数制限を実施する場合はここで示す

※補足※

学生への要望の記載例

- ・人数制限（120名）を行うので、必ず初回の授業に出席すること。（※）
- ・授業には真摯に取り組むこと。私語、飲食など他の受講者への迷惑になり授業の雰囲気をつぶす行為に対しては厳重に注意する。
- ・テキストおよび配布した資料を毎回の授業にかならず持参すること。
- ・受け身で授業にのぞむのではなく、問題の中に自分自身がいるという当事者の自覚をもち、問題解決に積極的に関わる姿勢で受講すること。

注意！！※人数制限を実施される場合は、必ずこの欄にご記入ください。

⑮担当者への連絡方法

- ・質問等の受け付け方法、オフィスアワーの曜時等を示す

※補足※

担当者への連絡方法の記載例

- ・質問などがある場合には〇〇研究室(翔空館△階)に出向くこと(毎週火曜日 5 講時はオフィスアワーなので在室)。
- ・質問は E メールでも受け付ける。アドレスは授業の初回で指示する。

注意！！ 個人の住所、電話番号、Eメールアドレスは記載しないでください。

(本学 2022 年度シラバスのイメージ)

科目名	英語学概論A		単位数	2単位	授業コード	12042
開期	2022年度秋期		曜時	全曜3限		
授業区分	週間授業					
配当学科	2017年度 大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国際英語学科 言語教育実践コース1年					
配当学年	1年					
担当教員	小森 道彦					
授業の到達目標	英語・または言語一般に関して基本的なことがらを理解するために、以下の3つの目標達成を目指す。 ・人間言語の特徴、英語の歴史や成り立ち、現代の「国際英語」について理解できる。 ・英語の音のしくみ（音声学、音韻論）の基礎が理解できる。 ・単語の成り立ち（形態論）が基礎を理解できる。					
授業の概要	大学で4年間英語を学びますが、英語は私たちが問題を解くためだけにあるものではありません。私たちが日本語を使って生活してきたように、英語にもそれを使う人がいて長い歴史があります。この授業では英語史や語源、World Englishes、音声学 (phonetics)、形態論 (morphology)などの領域を、テキストを詳しく読みながら、毎回ハンドアウトを配り具体例に基づいて解説します。「英語学概論B」とあわせて「英語」ということばの全体像が把握できるようになります。					
準備学習	指定したテキストを事前に読んでおくこと。					
テキスト						
書名	著者	出版社	ISBN	備考		
はじめての英語学<改訂版>	長谷川瑞穂（編著）	研究社	978-4-327-40165-8	-		
参考書						
書名	著者	出版社	ISBN	備考		
言語学の視界	ビクトリア・フロムキン他（著）	あぼろん社	978-4870415409	-		
テキスト/参考書に関する備考						
学生に対する評価	提出物・授業への参加（10％）、確認問題（2回）（90％）					
課題に対するフィードバック方法	レポート・試験終了後に解説をして模範解答を示します。					
授業計画						
第1回	Introduction、英語の数の表現					
第2回	言語の起源					
第3回	人間のことばの特徴・英語学の分野（1）：恣意性・二重性					
第4回	人間のことばの特徴・英語学の分野（2）：転移性・規則性・創造性					

～ (略) ～

第14回	語形成について、テキスト第10章1～2節を読み内容を整理しておく (60分)
第15回	11回目～15回目の授業内容について、テキストとハンドアウトをつかって理解を確認する (120分)
復習	
第1回	数の表現について、ハンドアウトにある数字が英語で表現できるか再度確認しておく (60分)
第2回	ハンドアウトを見て授業が理解できたか確認する (30分)
第3回	ハンドアウトを見て授業が理解できたか確認する (30分)

～（略）～

第13回	ハンドアウトを見て授業が理解できたか確認する (30分)			
第14回	ハンドアウトを見て授業が理解できたか確認する (30分)			
授業方法				
ア：協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	イ：ディスカッション・ディベート	ウ：グループワーク	エ：プレゼンテーション	オ：実習・フィールドワーク
-	-	○	-	-
その他				
ディプロマポリシーとの関係		DP8	授業科目の位置づけ・レベルを表す記号	
			M1	
授業方法について	学生どうしのグループワークを多く取り入れるので、積極的に参加すること。			
学生への要望	授業には必ず出席し真摯に取り組むこと。また、私語など他の学生の迷惑になる行為は厳重に注意する。			
担当者への連絡方法	質問がある場合には研究室（翔空館8F）にきてください。			

カリキュラムマップを参照のうえ、各授業科目の上位の「到達目標 1」「到達目標 2」を踏まえ、上位目標が各授業科目で展開するよう目標を設定してください。

- ・学則年度・学科・専攻・コースごとに作成しています。
- ・「組織のミッション（＝人材養成）」を達成するために必要な教育内容を「到達目標 1」「到達目標 2」で整理しています。
- ・「到達目標 1」「到達目標 2」で整理したそれぞれの教育内容に対応する科目を一覧にしています。
- ・複数の到達目標にひとつの科目が対応する場合があります。その場合は、上から見て 2 回目に表示される科目名を（ ）で囲み、「再掲」であることを示しています。
- ・表の右半分では、科目を配当学年・開期にあわせて表示し、履修順が明確になるようにしています。

「到達目標 1」「到達目標 2」を踏まえ、上位目標が各授業科目で展開するよう目標を設定していただきます。

学科・専攻名		健康栄養学科 管理栄養士専攻			1年											
ミッション(教育目標)・到達目標		到達目標に対応する授業科目														
到達目標1 (細)		到達目標2 (細)		科目区分1	科目区分2	科目区分3	授業科目			春		秋				
							科目名	単位	履修条件	科目名	単位	履修条件	科目名	単位	履修条件	
第1年卒業を中心に基礎的専門知識を社会実用に対応できる応用力まで、充分な知識・技術の習得できるように教育を展開し、以下に示す能力を身につけて卒業できることを目指します。 ※管理栄養士専攻卒業や認定などの取得で、個々の卒業状態を的確に把握・評価し、その結果をもとに、適切な卒業管理・卒業教育ができる。卒業に際する高度な専門知識を持つ管理栄養士を目指す。	管理栄養士の活動領域について理解する。また、以下の学科専攻科目を学ぶための基礎を理解している。	大学生としての学びの姿勢、基礎的な知識、技術が身についている。	学士課程基礎教育科目			アカデミックスキルズA	●	B1	アカデミックスキルズA	●	1					
	管理栄養士の活動領域について理解している。		学士課程基礎教育科目			アカデミックスキルズB	●	B1					アカデミックスキルズB	●	1	
	学科専攻科目を学ぶための基礎を理解している。	学科基礎科目	学科基礎科目	化学	●	A2	化学	●	2				生物化学	●	2	
		学科基礎科目	学科基礎科目	生物学	●	A2	生物学	●	2							
社会・環境と健康・人間と生活についての理解を学ぶとともに、社会や環境が人間の健康に与える影響をどう規定し左右するか、あるいは人間の健康を維持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会の環境と健康の関わりについて理解している。 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。 生活習慣病、栄養疾患、消化器疾患、代謝疾患、感染症、免疫・アレルギー疾患、腎臓疾患等の病態や疾病の発症や進行を理解している。また、病状評価や診断、治療の基本的考え方を理解している。	公衆衛生の歴史や人口学統計、疫学・環境と健康・生活習慣の現状と対策について理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	社会・環境と健康	社会・環境と健康A	●	●	管	A2							
	主要疾患の疫学と予防対策、社会保健制度、健康保険制度、介護保険制度、地域保健、学校保健、産業保健母子保健、国際保健について理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	社会・環境と健康	社会・環境と健康B	●	●	管	A2							
	社会保健制度の体系等、産業保健制度を概観し、社会保健の各分野の現状と課題を把握している。	学科専攻科目	専門基礎分野	社会・環境と健康	社会・環境と健康C	●	●	●	管	A2						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学A	●	●	●	管	A2			解剖生理学A	●	2	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学B	●	●	●	管	A2						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学実験	●	●	●	管	C1						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学実験B	●	●	●	管	C1						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	臨牀作業学総論	●	●	●	管	A2						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	臨牀作業学分論	●	●	●	管	A2						
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	微生物学	●	●	●	管	A2						
人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと人体の構造と機能を系統的に理解している。また、主要な臓器・細胞、病態、診断、治療を理解している。	学科専攻科目	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	薬と食	●	●	●	管	A2							

ヒトの健康に関わる管理栄養士にとって人体の構造と機能を理解することは基本的で重要である。解剖生理学 A では以下を目標とする。

- ①人体の器官・組織・細胞の構造や機能を理解している。
- ②循環系、呼吸系、消化系などの基本的な構造と機能を理解している。
- ③医療関係者として上記の構造と機能を解剖学・生理学の用語で表現できる。
- ④基礎的な生理機能測定方法の原理を理解している。